

めざす子ども像		「ふるさと芳井を愛し、目標をもって自ら考え、たくましく生き抜く子ども」			
学年・学期における探究課題		《地域に学ぶ》			
単元名		『ふるさとに関わろう』（全36時間＝実施時期：5月～2月）			
単元のねらい		井原市／芳井町の産業、特産品、偉人、自然などについて調べることで、自分たちが住んでいる地域に興味をもつとともに、調べ学習を通して地域の抱える課題を見出す			
		課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
主な活動		井原市・芳井町について知る 井原の魅力発見講座	井原市・芳井町に関わる人から直接話を聞く 桜溪訪問　　デニム講座 フィールドワーク	出会った人との話を整理し、郷土の魅力を分析する。	地域についての情報をまとめ、パンフレットを作成する。
仕掛け・工夫	もの		桜溪塾への訪問を通して、昔から受け継がれてきたものに触れる。 デニム講座を通して、井原の産業に触れる。	パンフレットの見本を、保護者や地域の方に見ていただき、改善点などのアドバイスをいただく。	
	ひと	Uターンで芳井に戻ってきた地域の大人との出会いから、外から見た井原や芳井の魅力に気づく。	井原の企業の方、生産者の方との出会いを通して、地域の大人の想いを知る。		
	しごと（こと）		地域にある仕事に出会う。		
	その他				
引き出した姿	いばら愛 （郷土愛と当事者性）	当事者性を持って、地域から学ぼうとすることができる。	地域の大人の想いに触れることで、郷土愛をもつことができる。		これまで自分たちが知らなかった井原市・芳井町の良さに気づくことで、郷土愛を一層深めることができた。
	やり抜く力 （向上心と忍耐力）			地域について調べたことを発信するために、粘り強く情報を整理分析することができる。	
	まき込む力 （発信力と協働性）		企業の方や生産者の方の地域貢献や地場産業への想いを知ることができる。	パンフレットの見本を保護者や地域の方に見ていただき、そこで得られた改善点などのアドバイスを生かして改良版を作成できる。	地域学習に関わってくれた大人へ発信することで、自分たちの学びを地域との協働活動にすることができる。
アウトプットの工夫			芳井小4年生と地域学習の内容を交流		パンフレットで学習内容を井原市内の学校や地域内外の人たちへ発信。
◆ 実際に関連付けた教科・領域、学校行事等			◆ 実際に連携・接続・交流した他学年、他校（園）種、外部団体等		
桜溪訪問　　総合的な学習　　美術科			芳井小学校4年生　　芳井中学校2年生　　興譲館高校（講師） 現地研修でお世話になった方々（芳井町特産品直売所・備中西商工会・三原渡り拍子保存会他） 井原市役所商工課		

〈R5〉芳井中学校・1年 単元名『ふるさとに関わろう』の流れ（探究過程）と活動の実際 担当【廣畑 美智子】

◆単元のねらい「井原市／芳井町の産業、特産品、偉人、自然などについて調べることで、自分たちが住んでいる地域に興味をもつとともに、調べ学習を通して地域の抱える課題を見出す」

課題設定

魅力発見講座

ひとつづくりコーディネーターの矢本さんから、井原市や芳井町の魅力を聞く。



情報収集① 地域全体

デニム講座

デニム講座で、地域の産業や井原デニムについて知ることができた。



情報収集② 現地研修

現地研修

6グループに分かれ、それぞれが芳井の魅力とを感じる場所に行き、直接話を聞く。



・自分たちが直接芳井の魅力にふれ、それに携わる人から話を聞くことで、パンフレットに掲載する情報を深めることができた。
・各場所で芳井の魅力にかかわる大人の想いにふれることができた。

まとめ・表現

まとめ（パンフレット作り）

各グループで、リーダーを中心にしてパンフレットを作成。



小学生との交流

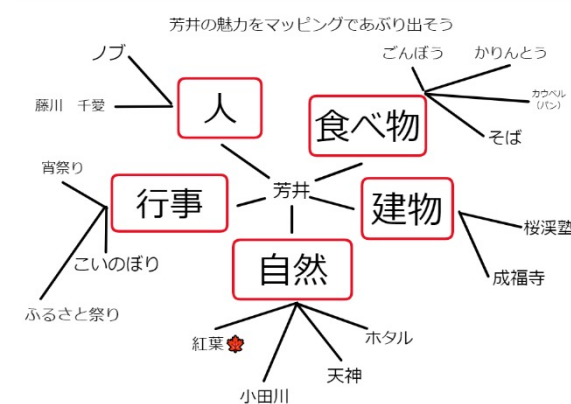
芳井小4年生と地域学習の内容を交流。芳井の魅力についての情報をより深いものにすることができた。



自分たちが芳井町のことを「どれだけ知って」いて「魅力はどう感じているか」をイメージマッピングで整理する。

桜溪訪問

桜溪塾・芳井歴史民俗資料館で芳井の偉人について知ることができた。



◆成果（○）・課題（△）・来年度に向けて（☆）

○地域学習のゴールを「芳井町の魅力をパンフレットで発信する」としたことから、ふるさとの魅力の再発見につなげることができた。

△生徒主体のため、学習を進める際迷走したり、時間が多く必要だったりする。

☆小学校での地域学習との連携を進める方法を模索していく。